

海外学会報告

XXXIVe Rencontres de l' ASDIFLE

西山教行

2004年10月22日から23日にかけて、フランシュ・コンテ大学（ブザンソン）のCentre de linguistique appliquée (CLA)を会場として、Association de didactique du français langue étrangère (ASDIFLE)のXXXIVe Rencontresが開かれ、フランス国内外から百名ほどの参加者を集めた。

ASDIFLEとは、1980年代にFLEがフランスの大学における学問分野として制度的に認知されつつあった時代に、当時パリ第三大学教授のLouis Porcherの主導により結成されたFLEのassociationである。フランスならびに多様な国籍の会員が登録しているものの、基本的にはフランス国内のFLE団体と見なすことができよう。この団体は、FLEという領域が言語教育研究を中核とする研究者だけの知的貢献により形成されたのではなく、公的機関、出版社、初等並びに中等教育関係者、語学学校教師など多様な分野からの参入により構築された職域縦断的分野であることを見事に体現している。そのため、研究集会は、学術研究に限定されがちなcolloqueという形態ではなく、多種にわたる専門的職業人ならびにその志望者の出会いの場としてRencontresという名称のもとに開催されている。

ここ数年は年間テーマを設定し、春にパリで、秋に地方都市で集会を開催し、それは年間テーマに沿った講演、アトリエ、シンポジウムなどから構成されている。今年のテーマはles métiers du FLEであり、FLEに携わる教師、団体、公的機関などの抱える課題を、職業活動としてのフランス語教育という視点から検討した。

現在のフランスにおけるFLEの市場は、日本人学習者のようにフランス国外からフランス語学習を目的としてフランスに滞在する、従来の外国人

学習者だけで構成されているのではない。フランス語をまったく学習した経験もなく、場合によっては就学経験そのもののないニューカマーの配偶者やその子弟なども FLE の市場にますます重要な地位を占めつつある。彼らにとってフランス語は生活言語として、また修学言語として不可欠だからである。フランスにおいて FLE は français langue de scolarisation に通底する機能を担っている。

このような社会的状況から、FLE を専門職として求める人材には、教室での教授法に直結する専門的スキルだけでなく、移住者とフランス社会との文化的仲介者としての役割をはじめとして、多岐にわたる調整能力や開発能力が要求されている。

研究集会の初日は、《 FLE et enjeux professionnels 》、《 Diversité des contextes et enjeux de formations 》、《 L' évolution du paysage des formations en FLE : quelles convergences institutionnelles pour quels horizons professionnels 》をそれぞれテーマとして、基調講演、アトリエ、シンポジウムが開かれた。語学学校の教員による基調講演は、フランスにおける FLE 教員のおかれた不安定な社会的地位についての問題提起として、フランスの高等教育制度に統合された FLE の教員養成が、「出口問題」を十二分に解決していない現実を浮き彫りにした。その後のアトリエの一つは、移住者や政治難民を対象としたフランス語教育の問題点を民間団体の活動に即して報告したもので、現代フランス社会の抱える FLE の社会的文脈の多様性を明らかにした。締めくくりのシンポジウムは、フランスの大学教育および対外協力政策に FLE がどのような地位を占めつつあるのか、なかでも 2003 年から導入されているヨーロッパ共通高等教育資格制度 LMD (Licence-Master-Doctorat)が FLE の養成にどのような変化を迫るのかなど、変革期にあるフランス社会からの議論が行われた。

二日目は《 Les TIC (Technologie de l' Information et de la Communication) : quelles compétences, quelles formations et quels métiers liés au FLE ? 》、《 FOAD (formation ouverte à distance) et visioconférence 》、《 Métiers, réseaux : l' offre de FLE en France, en Europe et dans le monde 》の題目の下に、全体講演、実践報告、シンポジウムが行われ、全体講演は FLE とマルチメディア教育の関連を教員の

職業能力の養成という観点から点検し、外国語教育全般の直面する課題を概観した。実践報告では、上智大学がブザンソン大学と連携して実施しているビデオ会議システムを活用した学習プログラムが紹介され、田中幸子氏がインターネットにより東京より遠隔参加され、高度通信技術の成果は会場をひとときわ沸かせた。締めくくりのシンポジウムでは、フランコフ◆Hニー関係の公的機関、フランス国民教育省、国際フランス語教授連合の代表や関係者が発言し、FLEの専門職を目指す学生へ向けて需要と供給の現状と展望を討議した。

今回の Rencontres は、専門職としての FLE の教員がフランスあるいは海外の市場でどのように活動する可能性があるか、またそのためにはどのような職業能力が不可欠であるかを中心的課題としたもので、そのためにフランス中心の議論の展開であったことは否めない。しかし、これと同時に、FLE の守備範囲がますます拡大し、教員に求められている能力が飛躍的に増大しつつある現状をも確信させるものであった。

(新潟大学)